

兒童心理學文獻抄 二〇

牛 島 義 友

反抗の心理

云ふ事を聞かない生徒、親に逆らふ子供、之程世の親たる者、教師たる者の手を焼き、根を盡きさす者はない。あんなに素直だつた子供が如何してこんなにいけなくなつたのでせうと母親をいぶからせる三、四歳の小兒、之を第一反抗期と云ふ。次に青年期の始め、中等學校の二、三年頃に第二反抗期と云はれる一層強い反抗期が現はれる。

ロックは此の反抗心はあくまで打ちこはさねばならぬ、此の爲には子供を鞭打つ事も辭してはならぬと云つてゐる。之に對しルッソーは反抗は外界の影響殊に教師の誤まつた取扱ひに對する反動であるからむしろ教師の側に責任があり、教師は努めて消極的態度を取り、即ち反抗の起ら

ぬ様に干渉をしない事が必要であるを主張してゐる。反抗は果して、鞭打つて矯正すべきものか、或ひは退いて靜まるのを待つのが賢策であらうか。此の教育手段を決定するにはまつ反抗の原因を追求して見なければならぬ。

ウィンクラー・反抗 H. Winkler: Der Trotz 1929

反抗には二つの意志が對立してゐる。即ち自我と此の自我に働らきかけんとする他のものと、此の二つの意志が對立した時に反抗が生ずるのである。自我意識が生ぜず、只親の配慮、意志のみが働らいてゐる嬰兒期には反抗といふ現象はない。漸く自分の考へ、自分の欲望を意識する様になつた時(三、四歳)に最初の反抗が現はれる。又自我意識に強く醒めて來る青年期に前述の如き第二の反抗期が現はれる譯である。

次に一度反抗状態になるに非理性的な感情に支配される。即ち反抗者には一種のフィルターがかけられ反抗をなだめる様なものは皆吸収してしまひ、それを高めるもののみを通過さす。之は反抗する子供のみなならず、それに對する、教師の側にも生じ、生徒が云ふ事を聞かなければ教師は一層腹を立てその爲に反抗状態は一層激しい鬭争状態となり、云ひ聞かせて納得さす事が出来ず、理窟で解決する事が出来なくなつて来る。

又反抗状態になるに反抗がはじめの反抗対象から他の対象に移つて行く。一人の教師に對する反抗が全教師に對する反抗に擴がり、更に家に歸つては両親への反抗、更にあらゆる權威に對する反抗にまで發展して来る。

次に此の反抗に服従は全然對立するものではなくて非常に深い關係に立つてゐるものである。自分に他人の意志が働らきかけた場合には服従に反抗の二つの傾向が同時に現はれて来るものである。此の云ひ付けに従はうか、逆はうか云ふ選擇状態が現はれ、やがてその場の空氣をかその人の氣質によつていづれか一方に傾向いて行く、服従す

る程親しくない者に對しては反抗も現はれない。反抗は最も親しい母親、先生に對して先づ現はれるものである。反抗に服従は紙一重の關係である。故に反抗に對する一般的對策としてはまづ此の選擇状態の時に子供の意志を自分の方に引き付けてしまはねばならない。反抗的状态に進んでしまつては子供は自分の周りに高い垣を廻らしてしまふ故にいくらこちらから善意に働らきかけても必ず悪意にさらされ反抗を一層激しくさせる。

次に反抗には色々の種類がある。此の種類に應じて對策もそれ／＼異ならねばならぬ。

1、自己主張の爲の反抗、之は主に青年期の終頃に現はれて来る反抗であるが、強い自我意識を持ち自己の立場を主張し自己の信念の爲に戦はんことを反抗であつて彼等青年にまつては周圍の社會をいふものは自己の權利を侵害し人格を毀損する虚偽に満ちたものを感じられ激しく反抗する。

所謂今日の青年將校の問題、或ひは昨日の青年の思想問題云はれたものは皆此の種の青年の反抗である。青年は

非常に考へ方が純真云云はうか、一本調子でラヂカルである。現實に妥協して行くまいふ態度は全然許されない。此の爲に社會人から見るに突飛な行動を深い信念を以て行ふ。

2、自己維持の爲の反抗、之に對して自我意識の弱い場合には、此の弱い自我を強い他我から保護せんとして反抗が現はれる。アドラーの云ふ劣弱感情を持つてゐるもの、例へばざもりであるか、髪の色が赤茶けてゐるか、縮れてゐるか、チビであるか、學校の成績が悪いとか、或ひは貧乏であるか、特殊部落の者であるか云ふ劣弱感情を持つてゐる子供は之を補償せんとしてひねくれた反抗をする。即ち彼等は自分の弱點を正面から克服する事は出来ないで對手のゐない所で蔭口をきゝ他人をけなす事によつて自分を高く見せ様とする。又は對手を象徴化した事物をぶちこはして見たり、對手が弱いと見る(分使、妹)積極的に反抗して行く。

反抗すれば當然所罰される譯であるが、前者のものは堂堂を受け、如何な肉體的苦しみもしのぎ通し自分の正義の

主張の爲に犠牲になるまいふ英雄的な氣持を感じて来る。故に之を英雄的反抗といふ事も出来る。之に對して後者は所罰を極力避けんとする。表面は大人しくしてゐて裏で策動する。併しもし所罰が避け得ざる時には思ひ切つた自棄的な行動をとり極端な反抗をなし、時に大事を仕出す事がある。彼の一世の英雄アレキサンダー大王の出生した同じ年に只自分の名前を史上に残さんが爲にエペソのアルテミス神殿に放火したヘロストラトスの如き行動をこる事がある。で此の種の反抗をヘロストラトスの反抗云ふ。青年期初期の反抗には此の種のものが多い。

或る貧困な家庭から上京してゐた青年が段々不良化し教師に對し反抗的になつてゐたが、ある時友達と一緒に旅行の途中生家を訪れた時にいそゝとして愛兒を迎へる母親に對し目に餘る反抗を示して皆を驚ろかせた例がある。之は彼が常日頃最も弱點を感じてゐた貧困を東京の富裕な學友達に見抜かれた爲に、斯かる反抗をなしたのである。此の青年は平生は服装など特に注意して富裕な家庭の子の樣に見せかけんとしてゐたのである。

3、暗示から来る反抗、まだ反抗した事のない幼児でも他の子供が反抗してゐるのを屢々見るに自分も眞似して反抗する事がある。最初は純模倣から來たものでも度重なる

此本當の反抗となる事がある。次に以前に反抗した場面の一部分を同一の條件の下におかれるにそれが暗示になつて反抗を起す事がある。幼児が醫者の白い服を見た丈でむづかるのは、痛い手術の場面に似てゐる條件に置かれたからであり、一定の色の飲物は如何しても厭がるのは苦い藥を想出すからである。

4、引出された反抗、絶えず叱つたり、小言を云つたり、かうしなさいあゝしなさい云ひ付けてばかりゐるにそれが反對暗示になつて子供に反抗的な氣持を起させ今迄従順だつた子供が突然に反抗する様になる。之は云ふまでもなく不當な取扱ひから起つた反抗である。教師が何氣なく叱つてもそれが子供に非常に大きな影響を與へる事が非常に多い。殊に自分が正しいと思つてゐる事で叱られたりする。その先生が非常に嫌ひになり、先生に話もせず手も舉げなくなつてしまふ事がある。叱る時は努めて慎重に的確に

せねばならぬ。輕々しく叱るに常いららした氣持で子供に接する事は最もいけない。

5、適應しない動機からの反抗、子供にある計畫を方針又は遊びの規則といふ様なある原則が出来てゐる場合に此の原則に矛盾するものを要求するに反抗する。ビュラー夫人の子供の最初の反抗は子供が三歳の時の或る日、乳母車に乗せて散歩して歸つた所門の中に入るに急に激しく泣き出した。今迄愉快に機嫌よくしてゐたので、又遊び足らない譯でもなく全く何の爲にこんな無理を云ふのかに當惑したが、實は子供には無理はないので、子供の理に反したから反抗したのである。即ち子供は毎日散歩からの歸りに家の門の所まで來るに乳母車から降りて自分で歩いて玄関に入る習慣であつた。従つて今日も之から車を降りて自分で歩くのだと思つてゐた時に、今日に限つてそのまゝ玄関まで乗入れられたので此の不當な待遇違反に對して憤慨した譯である。此の種類の反抗はその原因を知る事が困難で母親の最も當惑するものであるが、すべて子供の身になつて子供の考へに即して處置してやらなければならぬ。

6、偽りの反抗、反抗によつて自分の意志を通す事が出来たり、或ひは他の子供が無理に我意を貫いて成功したのを見るにわざと反抗する風をして自分の思つてゐる事を實現させやうとする。おごかしの反抗である。此の場合教師や親が此の偽りを見抜く事が出来ないで、斯る偽りの反抗が子供の常習手段となる。斯るくせが出来た爲に急に事情が變つて此の手段が效かなくなるにひきかゝり悪結果をもたらす事がある。例へば新たに小學校に入る様になつて今迄の手段で先生を自由にする事が出来ないで學校に行くのを厭がつてしふやうな事がある。

以上の様に反抗には色々な種類がある故にそれに對する處置もそれ／＼異なつて來なければならぬ。第一の自我主張のものに對してはその正しい動機は認めてやらねばならぬ。併し反抗は誤まつた方法であり、その報ひは高價である事を分らせる必要がある。他面意志の訓練が自制力を養つて軽々しく行動しない様にさせねばならない。又斯る者はさかく一人よがりの獨尊主義に陥る傾向がある故に適當な友達を持たす事、例へば幼稚園、小學校、青年團等

に入れて自分以外にも同様な意志を持つた者があるといふ事を知らしめる必要がある。

次に第二の自己維持の反抗に對してはその原因たる劣弱感情を問題させねばならぬ。その劣弱な部分を直してやるか、或ひは他の物によつて代償を與へてやる事が必要である。即ち體が小さくても勉強が出来ればよいとか勉強が出来なくても性質が善良であればよいと云ふ風に人生の目標を正しく明示してやればよい。

暗示型のものに對しては獨立心を養ひ自己の考へ方、判断を強く持つやうに教育して行く。

引き出された反抗は教師、親の責任である。偽りの反抗に對してはそれを無視し、構はないでおく方がよい。適應しない動機からのものに對しては子供の計畫、原則を尊重すると共に子供自身でそれを發展向上させる様に導いて行かねばならない。